

(別紙2)

審査の結果の要旨

論文題目 『近世社会における医療環境の研究』

氏名 海原 亮

本論文は、日本近世社会における医療の具体相を、多様な医師存在と被治療者を中心に解明し、それぞれが置かれた社会的状況（医療環境）の歴史的特質について考察するものである。冒頭の「問題の所在」で研究史の批判と、本論文の課題を詳細に述べたあと、本論を3部・9章から構成し、さいごに全体のまとめを付している。

第一部「地域社会の構造と医療」は二つの章からなり、地域社会に発現する医療環境の実態とその社会的基盤を分析する。1章では、刈谷・畿内在郷町・大坂を例に、流行病対策と医療の実態をみる。2章では、彦根藩領惣庄屋の日記を素材に被治療者の眼から地域医療の性格を検討する。

第二部「藩政レベルにおける医療の拡充」は、四つの章から構成され、藩医の実態を制度・組織・身分の諸局面から明らかにする。3章は、彦根藩医学寮を例に領内医師の統制の様相を、また4章では、福井藩医学所における教育・進級システムを分析する。次の5章では、福井府中藩における藩医の身分・職分、および城下の町医との関係構造をみ、さらに6章では、伊勢崎藩を事例として、藩医の役務と地域への医療活動を具体的に検討する。

第三部「19世紀における都市的医療の展開」においては、江戸や京都という都市社会における医療環境の状況を探る。まず7章で、「京学」の問題を軸に、京都と在地社会を媒介する学問の浸透・普及の様相をみる。つぎの8章では、文政期の医師名鑑を詳細に分析し、江戸の医療環境において、全国から江戸へ集まる藩医らの役割と比重の高さ、人的ネットワーク形成の特質などを解明する。そして9章において、画像史料をも用いながら、江戸の売薬と、周縁的な医療の有りようを考察する。

さいごの「まとめ」では、以上をふまえて、地域社会に発現する医療環境の特徴や、近世医療の制度形成、さらには医の学統や医師身分の特質について総括し、残された課題を提示する。

本論文は、近年の身分論、地域社会論などの成果を取り込み、これまで学史・制度史や在村医研究に偏ってきた医史研究の状況を、医療環境論という視角を提示しながら、一挙に打破しようとする意欲的なものである。とくに、彦根・福井・府中・伊勢崎などの諸藩関係や、江戸・大坂など、各地の医療・医学・医師関係史料を博捜し、多数の新たな知見をもたらした点は特筆される。また藩医や医学所を軸として、医師の身分や職分について論じた点は独創的な業績として評価することができ、近世社会論全般にも大きな刺激を与える質を持っている。

本論文は、一部にやや性急な論旨の展開や、饒舌な文体など、改善すべき点もみられるが、本委員会は、上記のような顕著な成果に鑑みて、本論文が博士（文学）に十分値するものであるとの結論を得た。